

研究の経過と概要

東山梨教育協議会 平和・人権教育と国際連帯部会

1 報告書ができるまでの具体的経過について

研究主題 「平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして」

- 研究の具体的内容
- ① 一人一実践の報告
 - ② 研究授業
 - ③ 臨地研修または講演会による学習
 - ④ 県教研環流報告

2013年研究の経過と計画（敬称略）

回	研究日	内 容
1	5月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究組織作り ・ 研究テーマ及び研究内容の決定
2	5月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究計画作成 ・ 春季教研環流報告 ・ レポートの形式についての確認
3	6月5日	<p>【実践報告】</p> <p>塩山北小 檜垣貴子 (人権) なんていったらいいのかな 日下部小 山宮由紀 (平和) よっちゃんのビー玉</p> <p>【資料提供】</p> <p>八幡小 樋口美根夫校長 (平和) 平和への願い 6.23 沖縄 慰霊の日</p>
4	8月5日	<p>【夏季学習会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 統一授業研に向けての授業案検討・資料検討 ○ 臨地研修 <p>「山梨県立博物館」見学 (笛吹市御坂町成田1501-1) 説明 川崎 剛先生</p>
5	8月30日	<p>【授業研究】</p> <p>山梨小 雨宮和美 (国際連帯) せかいの子どもたち</p>
6	10月2日	<p>【実践報告】</p> <p>井尻小 保坂千恵子 (人権) だいじょうぶ, ごめんね 塩山南小 三森公仁 (人権) 公害から人権を考える実践 菱山小 高添 勉 (国際連帯) 国際理解・異文化共生への取り組み</p>
7	11月27日	<p>【実践報告】</p> <p>塩山南小 甘利志賀峰 山梨小 武井 由美</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 秋季教研環流報告

8	1月15日	【実践報告】 加納岩小 中村 勝 ○ 指導案検討 祝小 田邊博幸
9	2月 5日	【授業研究】 祝小 田邊博幸
10	2月12日	・ 研究のまとめ

2 今次地区教研で論じられた問題と今後の課題について

- ・ 実践報告では、様々な領域からの貴重な実践を聞くことができ、今後の取り組みの参考となった。また、意識が高まり、お互いに刺激し合うことができた。
- ・ 授業研究は、「せかいの子どもたち」という題材で、2年生の子ども達が、3枚の写真を見てどんな写真か考え、意見をたくさん出し合うことができた。そして、自分たちに何ができるか考えた。子ども達はこの授業を通して、世界の国々の子ども達の様子を知ることができ、世界のことに興味をもつことができた。
- ・ 夏休みに行われた臨地研修は、博物館の川崎先生に、甲府空襲についての出前授業の様子をお聞きし有意義なものとなった。時間がしっかりとれるこの機会でないとなかなかできないことでもあった。博物館の見学では、戦争についてのブースで詳しい説明をしていただき、映画鑑賞もし、今後の授業づくりに役立てる内容であった。
- ・ 一実践の中には、平和教育、人権教育についてのレポートはもちろん、国際連帯教育についてのレポートもあり、研究の広がりが見られた。
- ・ 戦争経験者も少なくなって来た今、戦争について、平和について考えさせたい時、生の体験談が一番伝わるものが多いと思われるが、その「語り」を今後どのように残していけばよいか問題となる。部会としてもできることは考えていきたい。

3 報告書作成参加者、共同研究者について

山梨支会	校長 樋口美根夫				
	教諭 武井 由美	雨宮 和美	中村 勝	山宮 由紀	
甲州支会	教諭 三森 公仁	甘利志賀峰	保坂千恵子	檜垣 貴子	
	田邊 博幸	高添 勉			

第2学年学級活動授業案

山梨小学校

雨宮 和美

1 題材名 せかいの子どもたち 学級活動(2)ーキ

2 児童の実態

本單元については、「世界には飢餓の状況にあり、生命の危機にさらされている子どもたちがいる」ということについて、知識がある子とない子に分かれる。学級での家族構成は、21名中、核家族が14名、祖父母と同居世帯は7名であった。学級の3分の1が祖父母とは同居しているものの、祖父母の年齢は50～60代後半ととても若く、戦争を実体験している世代ではない。そのため、戦争や世界の飢餓状況を家族で話す機会も少なくなっている。

平和については、3つの項目についてアンケートをとった。まず、「日本は平和だと思いますか」の問いに、平和であると答えた児童は90%であった。理由は、普段の生活が楽しく、家族や友だちがいるから、食べるものがたくさんあるからが多数であった。環境や世界情勢に関わって考えた児童も数名いた。一方、平和ではないと答えたのは21名中2名であった。理由は、犯罪や自然現象であった。飢餓についてふれている回答はなかった。つぎに、「他の国は平和だと思いますか」については、平和ではないと答えた児童が60%であった。戦争があり、人が死んでしまうからという理由がほとんどであった。飢餓については、1名の児童が食べるものが少ないと答えた。さらに、「戦争を知っていますか」の問いには、知っていると答えた児童は、90%であった。世界では戦いをして人が死んでしまうことについては知っている状況である。また、どこから情報を得たかについては、おかあさんからが一番多く5人であった。しかし、母親の年齢も28歳～42歳となっている。祖父母から話を聞いた児童は4人となっている。また、世界の戦争の状況については、テレビから情報を得た児童が9人であった。家族などから話を聞いたことよりも、メディアを通して知っていたことのほうが多かった。

3 題材設定の理由

現在、世界ではおよそ8人に1人、計8億7000万人が飢餓に苦しんでいる。そのうち、5億6300万人はアジア・太平洋地域、2億3900万人はアフリカに住む人たちである。飢餓の原因は、戦争ばかりではない。地震や津波、洪水、干ばつなどの自然災害が起こると、農作物が被害を受け、人びとは家や家財、仕事などの生活基盤を失う。また、紛争が起きると、難民キャンプなどへ避難せざるを得なくなり、食料の確保が困難を極める。さらに、貧しい農民は農業を行うための土地や種などを確保できず自給自足できないため、貧困や飢餓から抜け出せず貧困の連鎖が生じる。

そこで、今回の授業では、まず、世界の子どもたちを知ることをねらいとする。事前学習として、日本の戦争の絵本を題材に、自国の昔の事を知る。そして、世界へと目を向けさせる。まずは、貧困層ではない国々の子どもたちの様子を知り、日本から世界へと目を向けさせる。次に、飢餓の状況にある3枚の子どもたちの写真を提示し、自分の生活とはかけ離れた食料事情を知る。世界の国の中には戦争により生命が脅かされている子どもたちが多くいることや食べるものさえない子どもがいることを知らせる。もちろん貧困の理由は、戦争だけでなく、経済事情なテロなど様々な要因が考えられる。そして、さまざまな原因で飢餓の状況にある国があるという実態を知り、自分たちの生活と比べて話し合う中で、世界の子どもたちの現状を知り、考えさせたい。自分たちの今の生活の平和や豊かさを思うとともに、さ

らに、自分たちに何ができるかを考え、最終的には、世界のことに興味をもち、ニュース番組を見たり、世界のことが書いてある本を読んだり、世界を知ることにつなげていきたい。

今後は、本時の授業を給食指導につなげて、食べ物を粗末に扱わないこと、給食を残さないで食べることを考えさせたい。自然への恩恵などへの感謝や食料事情から、自分がこれからどのように食に対して考えていったらよいのかを考え、具体的に実践する機会としたい。

参考文献 国連 WFP の資料

4 題材のねらい

- ・世界には、食べるものさえない子どもたちがいることを知る。
- ・今の自分の食生活を振り返り、食べ物を大切にすることを養う。

5 指導計画

□事前指導

- 1 学級活動 「平和についてのアンケート」「食生活についてのアンケート」
- 2 国語 「絵本の読み聞かせ」
『まちゃんと』『かわいそうなぞう』『いわたくんちのおばあちゃん』『えんぴつびな』
- 3 道徳 山梨県立博物館の講師を招いての戦争(甲府空襲)の学習

□本時

- 4 学級活動「せかいの子どもたち」
○めあて 世界には、食べるものさえない子どもたちがいることを知る。
○学習内容 世界の国々の子どもたちの状況を知る。
○評価規準 世界には食べるものがなくて生命が脅かされている子どもがいることを知ることができたか。

□事後指導

- 5 学級活動「今の自分の食生活について考える。」
- 6 学級活動「平和についてのアンケート」2回目
- 7 給食の時間 学級全体で決めためあてを実践する。

6 本時の展開

(1)日時 2013年8月30日(金) 5校時 14:00～14:45

(2)場所 山梨市立山梨小学校 2年1組教室

(3)本時のねらい

- ・世界には、食べるものさえない子どもたちがいることを知る。

(4)本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 ■評価方法 ●準備品
導入	1(1)『ぼくがラーメンたべてるとき』の絵本を聞く。 (5分) ○今までどんな絵本の読み聞かせをしたか思い	・教室の前に集まり読み聞かせをする。 ・これまでどんな絵本の読み聞かせを

10分	<p>出す。</p> <p>『まちゃんと』『かわいそうなぞう』『いわたくんちのおばあちゃん』『えんぴつびな』</p> <p>○ 絵本を聞く。</p> <p>(2) 今、世界の国々の子どもたちはどんなことをしていると思うか考える。 (5分)</p> <p>○ 外国に行ったことがあるか。 どんな国を知っているか。 ・アメリカ ・中国 ・フランス</p> <p>○ 今、何をしていると思うか考える。 ・勉強をしている。 ・遊んでいる。 ・寝ている。</p>	<p>したか振り返ってから、絵本を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本は途中まで読むことを児童に知らせておく。 ・理解が難しそうなところは説明をしながら読み進めていく。 ・どんな国を知っているか少し質問して世界に目を向けさせる。 ・身近なこととしてとらえられるように同じ年代の子どもの生活のことについてたずねる。 								
つかむる。20分	<p>2(1) 今日学習することを知る。 (2) 平和についてのアンケートの結果を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>世界の国々の子どもたちを知ろう。</p> </div> <p>(1分)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・日本は平和だと思う</td> <td>21人中19人</td> </tr> <tr> <td> 思わない</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>・他の国は平和だと思う</td> <td>21人中 8人</td> </tr> <tr> <td> 思わない</td> <td>13人</td> </tr> </table> <p>(3) 世界の子どもたちについて知る。</p> <p>① 世界地図で、日本の場所を確認する。(1分)</p> <p>② 世界の飢餓状況にない国を6ヶ国紹介クイズに答えながら、世界の国々を知る。 (アメリカ・インド・フランス・カナダ・オーストラリア・ブラジル)</p> <p>③ 3枚の写真から分かることを発表する。 (15分)</p>	・日本は平和だと思う	21人中19人	思わない	2人	・他の国は平和だと思う	21人中 8人	思わない	13人	<ul style="list-style-type: none"> ・板書 せかいの子どもたち ・次の学習に繋げるため、理由はとくに知らせない。 ・世界地図を見せ、「世界」と「日本」を確認させる。 ● 世界地図(パワーポイント) ・クイズ形式にして世界に興味をもたせる。 ● 電子黒板(パワーポイント) ● 3枚の写真(黒板に貼る) ・子ども達の驚きを大切にする。
・日本は平和だと思う	21人中19人									
思わない	2人									
・他の国は平和だと思う	21人中 8人									
思わない	13人									



- どんな写真か考える。
- ・泣いている子がいる。
- ・食べ物がパンとスープだけ。



- どんな写真か考える。
- ・悲しそうな顔をしている。
- ・何日も食べていないと思う。
- ・日本の食べ物をあげたい。



- どんな写真か考える。
- ・歩いて逃げるなんてたいへんそう。
- ・食べ物をみんなで取り合っている。

(4)世界の飢餓状況を知る。 (3分)

①世界飢餓状況マップを見る。

● アメリカ・インド・フランス・カナダ・オーストラリア・ブラジル

● 南アメリカのボリビア
アフリカのアンゴラ

②気付いたことを発表する。

- ・黄色いところは、食べ物に困っていない。
- ・赤色のところは、食べ物に困っている。

③どのくらいの国の子どもたちが食べ物に困っているか予想する。

世界の総人口70億人

山梨小全校児童数266人

④8人に1人が飢餓状況にあることを知る。

・自分たちの生活と大きく違う様子を気付かせたい。

☆南アメリカのボリビア

・何日も食べ物を食べていない様子を想像させる。

☆アフリカのアンゴラ

・食べ物どころか住むところがない人がいることを知らせる。

☆ヨーロッパのコンゴ

■世界には食べ物がなくて生命が脅かされている子どもがいることを理解できたか。(児童の発言)

・黒板の近くに集まり、地図がよく見えるようにする。

●世界飢餓状況2012

・色ごとに飢餓状況が分かることを説明する。

・3択クイズにする。

- ①800人に1人
- ②80人に1人
- ③8人に1人

深
め
る
10
分

3 今の自分の生活と比べて、今日の授業で感じたことをまとめる。

①ワークシートに自分の考えを記入する。(5分)

②学級全体で意見を発表する。(5分)

・今、自分たちは、戦争がなくて、食べ物もあり、幸せなんだ。

・世界の中には、たいへんな子どもたちがたくさんい

・自分の生活を思い出しながら自分の考えが書けるように声をかける。

・世界の国の子どもたちの食生活と自分たちの食生活を比べて振り返らせる機会とする。

・たくさんの児童の意見を大切にす。

・世界に関心を向けさせることができたらよい。

■他の国と比べて自分の意見を書くことができたか。

	<p>ることがわかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界から、戦争がなくなってほしい。 	
終末5分	<p>4 自分たちに何ができるか意見を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことに、もっと興味をもつ。 ・ニュース番組を見る。 ・家の人に教えてもらう。 ・世界のことを書いてある本を読む。 ・ユニセフ募金など、できることに協力する。 ・ベルマーク、古切手、アフリカ救援米に協力する。 <p>5 絵本の続きを読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ユニセフ募金の資料 ・ユニセフ募金をしたことにも触れる。 ・世界のことにまず興味を持ち、知ることが大切であることを押さえる。 ・難しいところは補足をしながら読む。

7 板書計画

自分たちに
できること









せ
か
い
の
こ
ど
も
た
ち

8 アンケート結果

7月3日(水)実施 21

人

①日本はへいわだと思えますか

はい 19人

なぜそう思いますか

- ・みんなが仲良く遊んでいて楽しい 4
- ・家族、友達、先生がいるから 4
- ・食べ物をいっぱい食べられるから 3
- ・学校が楽しいから 2
- ・助け合って日本のほうが優しい人ばかりだから 2
- ・かなしいことがないから 1
- ・光とかきれいな川もあるから 1
- ・すばらしい国だから 1

いいえ 2人

なぜそう思いますか

- ・泥棒がいるから 1
- ・山が噴火するから 1
- ・地震が少ないから 1
- ・テロがないから 1
- ・戦争がないから 1
- ・お店があるから 1

②ほかの国はへいわだと思えますか

はい 8人

なぜそう思えますか

- ・日本も楽しいけど、他の国もいろんなことがあって楽しそうだから 2
- ・みんな元気で遊んだりご飯を食べているから 1
- ・知り合いがアメリカにいてとても優しいから 1
- ・他の国にも優しい人がいると思うから 1
- ・日本は小さいけど、ほかの国は大きいから 1
- ・国が大きくて店がいっぱいあるから 1
- ・食べ物がいっぱいあるから 1

いいえ 13人

なぜそう思えますか

- ・戦いをするから 2
- ・日本みたいに、はしやスプーンがなく、手で食べているからかわいそうだと思う 2
- ・戦いをして人が死んでしまうから 1
- ・北朝鮮がミサイルを発射したから 1
- ・けんかをしたり、国と国で仲が悪いから 1
- ・戦争をする可能性があるから 1
- ・戦争で他の国からちがう国へ行くから 1
- ・台風とかがたくさんあるから 1
- ・貧乏なところがいっぱいあるから 1
- ・きたなそう 1
- ・手がきたない 1
- ・何か変なものが出て気持ち悪いものがあるかもしれないから 1
- ・ご飯とかちょっとしか食べられない 1
- ・テレビで見たことがあるから 1
- ・学校や楽しいところがない 1

③せんそうを知っていますか

知っている 19人

どんなことを知っていますか

- ・大砲を撃ったり鉄砲を撃ったり、みんなでけんかをして戦いをする 13
- ・爆弾をしかける 1
- ・ミサイルを設置して他の国に発射させる 4
- ・人をいなくして、物を取る 1
- ・人が死んでしまい、国と国とが戦って陣地をもらう 1
- ・戦争でとなりの国へ逃げていく人がいる 1

知らない 2人

だれから聞きましたか

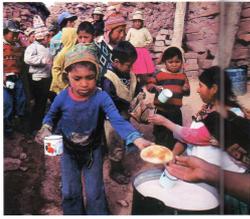
- ・家族 1
- ・おかあさん 5 (28歳～42歳)
- ・おとうさん 3 (30歳～39歳)
- ・おばあさんおじいさん 4 (65～70歳)
- ・友だちのお母さん 1

何から知りましたか

- ・テレビ 9
- ・本 3
- ・自然に 1
- ・古墳の看板 1

9 成果と課題

(1) 児童の意見



[3枚の写真から分かることを発表する。]

- ・たべものがない。
- ・パンやスープをもらっている。
- ・家族をなくした子
- ・子どもたちが何かをたべている
- ・心が重い
- ・泣いている
- ・かなしそう
- ・さみしい

- ・安全な場所にいる。



- ・おなかがすいている
- ・たべるものがない。
- ・やせている。
- ・骨がみえる。
- ・体が黒い。
- ・何ヶ月もたべていない。
- ・元気がない。
- ・ずっと歩いている。
- ・たべものを探している。



- ・探している。
- ・家がない。
- ・パンをもらっている。
- ・戦争から帰ってきている。
- ・逃げている。
- ・ごはんがない。
- ・行くところがない。
- ・避難している。

[今の自分の生活と比べて、きょうの授業で感じたことをワークシートにまとめる]



今日の自分のせいかわらなくて、きょうのがくしゅうで、どんなことをかんじましたか。

せかいの子どもたち

二年 くみ

名前)

今まで、こんなにかまってる人なんて、いないと田んぼでたけごま、うのおべんさまで、こんな人がかまってることをはじめして、りました。じぶんは一日つうたべられるけど、週かんもたべてなせうで、じぶんはあ、自分でできることはなにか、わせたと思いました。ぼさんにきょうりよくする。



今日の自分のせいかわらなくて、きょうのがくしゅうで、どんなことをかんじましたか。

せかいの子どもたち

二年 くみ

名前)

わたしは、へいわなくらいをしている、けれど、国ではたべものがなかつたり、せい、かついてまて、いる人がいるので、なりました。わたしは、かぞくがなくなると、こまります。でも、ちがう国では、ほんとのかぞくがなくなると、の、に、あ、げ、た、ら、い、と、思、い、ま、し、た。お、う、ま、ん、し、た、い、と、思、い、ま、し、た。学、校、と、か、い、い、は、い、ぼ、き、ん、を、あ、つ、め、バ、ル、マ、ー、ク、も、ち、ま、う、は、そ、の、人、た、ち、に、あ、げ、た、ら、い、と、思、い、ま、し、た。

(2) 授業者の反省

- ・他校の先生方に見守られ、意欲的に手を挙げ発表していた。
- ・飢餓状況を知るためにハンガーマップを見せたが、普段目になっている日本が中心になっている世界地図と違ったため、日本の場所が分かりにくい児童がいた。
- ・飢餓状況にある3枚の写真を見て、児童が感じたことを素直に表現していた。
- ・今日の授業で感じたことをまとめるところで時間も押してきてしまった。児童の意見交流をもう少し深めることができたならよかった。
- ・子ども達ににできることとして、「まず世界の国のことを本やニュースで知ることが大切」ということは、伝えられたと思う。

(3) 研究協議から

- ・集中して子ども達が最後までとりこんでいた。
- ・子ども達が臆することなく発表し、知識や情報をもって想像できていた。
- ・飢餓状況にある3枚の写真を紹介する前に、他の国を紹介することで、いろいろな国の状況を知ることができた。6ヶ国を紹介したが、日本人と同じ顔つきのアジアの国も取り上げてよかった。クイズ形式にしたことで、世界の子ども達に興味をもたせることができていた。
- ・新しい発見や驚きがでてきてよかった。「かわいそう」で終わらない方がいいが、今の2年生の段階ではここまででもいいが、今後学年があがるにつれ、どこかでもう一歩進めたい。
- ・アンケートの中の「手でたべているからかわいそう」からも、世界の国々に興味関心をもてるようにしていきたい。世界の国々を知る意識を今後も高められるとよい。
- ・子ども達にとって日本の文化が考え方の基本となっていることを考えると、衣食住などの異文化やいろいろな生き方を知ることが大切だと思う。人権意識の基本にもなるのではないかな。
- ・貧しいということが不幸なのか。偏見をまず捨てること、異文化理解をしていくことが大切なのではないかな。

(4) まとめ

今回の授業では、まず、世界の子どもたちを知ることをねらいとした。飢餓の状況にある3枚の子どもたちの写真を提示したときには、国名あてクイズでの盛り上がりから一転、教室の中が静まり返った。授業の感想では、自分の生活とはかけ離れ、世界には食べるものがない子ども達がいることや両親がいない子ども達がいることをはじめて知ったという児童も何人かいた。

授業後、給食の時間に、食べ物を粗末にしている友だちに、「食べ物を大切にしないといけないんだよ。この間勉強したじゃん。」「そうだよ。」などの声も聞くことがあった。また、世界のことに少し興味もち、ニュース番組の話をする子もいた。

本時の授業を給食指導につなげて、学級で食べ物を粗末に扱わないこと、給食を残さないで食べることを考えさせた。献立の中には、苦手なものもあるし、少量でもおなかがいっぱいになってしまうという意見から、苦手なものについては半分減らし、配膳されたものは残さないように食べることにしている。また、ついつい話に盛り上がり食べる時間が少なくなってしまうので、最初の10分は静かに食べることにしている。このように、身近なことから実践していこうと思う。そして、世界のことを知り、自分に

は何ができるのか考え、実践していこうとする心を育てていきたいと思う。

研究の経過と概要

東山梨教育協議会 平和・人権教育と国際連帯部会

1 報告書ができるまでの具体的経過について

研究主題 「平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして」

- 研究の具体的内容
- ① 一人一実践の報告
 - ② 研究授業
 - ③ 臨地研修または講演会による学習
 - ④ 県教研環流報告

2013年研究の経過と計画（敬称略）

回	研究日	内 容
1	5月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究組織作り ・ 研究テーマ及び研究内容の決定
2	5月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究計画作成 ・ 春季教研環流報告 ・ レポートの形式についての確認
3	6月5日	<p>【実践報告】 塩山北小 檜垣貴子 （人権）なんていったらいいのかな 日下部小 山宮由紀 （平和）よっちゃんのビー玉</p> <p>【資料提供】 八幡小 樋口美根夫校長 （平和）平和への願い 6.23 沖縄 慰霊の日</p>
4	8月5日	<p>【夏季学習会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 統一授業研に向けての授業案検討・資料検討 ○ 臨地研修 「山梨県立博物館」見学 （笛吹市御坂町成田1501-1） 説明 川崎 剛先生
5	8月30日	<p>【授業研究】 山梨小 雨宮和美 （国際連帯）せかいの子どもたち</p>
6	10月2日	<p>【実践報告】 井尻小 保坂千恵子 （人権）だいじょうぶ、ごめんね 塩山南小 三森公仁 （人権）公害から人権を考える実践 菱山小 高添 勉 （国際連帯）国際理解・異文化共生への取り組み</p>

7	11月27日	【実践報告】 塩山南小 甘利志賀峰 山梨小 武井 由美 ○ 秋季教研環流報告
8	1月15日	【実践報告】 加納岩小 中村 勝 ○ 指導案検討 祝小 田邊博幸
9	2月 5日	【授業研究】 祝小 田邊博幸
10	2月12日	・ 研究のまとめ

2 今次地区教研で論じられた問題と今後の課題について

- 実践報告では、様々な領域からの貴重な実践を聞くことができ、今後の取り組みの参考となった。また、意識が高まり、お互いに刺激し合うことができた。人権教育では、昨年度から継続した研究の発表もあった。
- 授業研究は、「せかいの子どもたち」という題材で、2年生の子ども達が、3枚の写真を見てどんな写真か考え、意見をたくさん出し合うことができた。そして、自分たちに何ができるか考えた。子ども達はこの授業を通して、世界の国々の子ども達の様子を知ることができ、世界のことに興味をもつことができた。
- 夏休みに行われた臨地研修は、博物館の川崎先生に、甲府空襲についての出前授業の様子をお聞きし有意義なものとなった。時間がしっかりととれるこの機会でないとなかなかできないことでもあった。博物館の見学では、戦争についてのブースで詳しい説明をしていただき、映画鑑賞もし、今後の授業づくりに役立てる内容であった。
- 一実践の中には、平和教育、人権教育についてのレポートはもちろん、国際連帯教育についてのレポートもあり、研究の広がりが見られた。
- 戦争経験者も少なくなってきた今。戦争について、平和について考えさせたい時、生の体験談が一番伝わるものが多いと思われるが、その「語り」を今後どのように残していけばよいか問題となる。部会としてもできることは考えていきたい。
- 「自立と共生の教育」の県教研リポートは、昨年度冬の統一授業研で提案されたリポートを提出する。

3 報告書作成参加者、共同研究者について

山梨支会	校長 樋口美根夫				
	教諭 武井 由美	雨宮 和美	中村 勝	山宮 由紀	
甲州支会	教諭 三森 公仁	甘利志賀峰	保坂千恵子	檜垣 貴子	
	田邊 博幸	高添 勉			

「自立と共生の教育実践」レポート

甲州市立井尻小学校

保坂 千恵子

1. 題材名 なんていったらいいかな？（学級活動）

2. 児童の実態

元気で、学校生活に意欲的な21名の児童である。休み時間には、全員が外に出て、サッカー、おにごっこ、一輪車、なわとびなどで遊んでいる。9つの保育園・幼稚園から入学してきているため、子ども同士のつながりが薄く、お互いの接し方にぎこちなさを感じられた。初めは、同じ保育園の友達や、席の近い子と一緒に遊ぶことが多かった。クラスでゲームや遊びの企画を考えても、なかなかルールが守れなかったり、自分の思い通りにならないとやろうとしなかったりする児童が3～4人いた。

一年生ももうすぐ終わりに近づいてきて、友達を思いやって優しくしたり、いやなことでも我慢ができるようになってきたりしてきた。そのため、さまざまな友達と遊ぶことができるようになってきた。しかし、話している言葉を聞いていると、乱暴であったり、人の嫌がることを平気で言ったりしているのが聞こえてくる。また、人をお願いするときや、断るときの話し方がよくわかっておらず、トラブルになることも多い。

アンケートでは、18名の児童が『友だちとなかよくできる』と答えている。一緒に遊んだり、優しく声をかけたりしていると答え、友達と仲良く遊びたいという気持ちがかがわれる。友達の良いところを見つけてほめたり励ましたりしている児童も13名いて、優しい気持ちで接している様子がわかる。しかし、友達に嫌なことを言われたという児童が7名、嫌なことを言って染まった児童が9名いる。嫌なことを言ったという児童と、言われたという児童の話が一致していないことから、自分のしていることが自覚できていないと考えられる。

3. 題材設定の理由

対人関係をうまく築くことが難しい児童も多く、ちょっとした言葉や行動の行き違いで、トラブルが起きることが増えている。そのために、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた。普段の学校生活で起きそうな場面を、状況、態度、言葉かけなど考えさせながら、実際にロールプレイングを行う。そのためには、子どもに身近な状況を設定し、「自分だったらどうすればよいか」ということを十分に考えられる場面を設定する必要がある。

今回は、友達が作った作品を見て、温かい言葉かけをする練習を行う。実際に、ランダムに相手を決め、友達の良いところを見つけさせ、メダルを作ってみた。普段交流が少ないクラスメートをよく見ることで、今迄に気付かなかった相手の良さに気付くようにさせた。

その後、ソーシャルスキルを学び、相手に温かい言葉をかけることで、自分も相手も気持ちよく生活できるようになると気づかせたい。また、授業後、学習したスキル

を実行した子ども、それを受け取った子どもの気持ちを折に触れて取り上げ、クラスで共有化することで、学級全体の中で、「望ましい行動」と受け取られるようにしていきたい。一人一人が、相手の立場に立って考えることができ、その場に応じた話し方ができるようにさせたい。また、自分の思うことを人にいやな気持ちにさせないで伝えることができるようにさせたい。

5. 本時の学習

- (1) 日時 平成25年2月13日(水) 5校時 14:00~14:45
- (2) 場所 1年1組教室
- (3) ねらい 「ほかほかことば」について知り、言い方によって友達に与える影響について考える。
- (4) 展開

過程	児童の学習活動	教師の支援 指導上の留意点	備考
導入 5分	1. 友達に言われて、うれしかったことばといやだったことばを聞き、どんな感じがするか考える。 うれしかったことば…ありがとう、すごい やさしいね など いやだったことば…ばか、あほ など	・子どものアンケートから、紹介し、考えさせる。	子どものアンケート
展開 30分	2. イラストを見ながら、冷たいメッセージをかけられた時のことを考える。 ①教師の冷たいメッセージを聞き、相手がどう思うか考える。 ②そのあと、どうなるか考える。 3. 自分だったらどんな言葉を言っていきたいか、考える。 ・色がきれいだね。 ・かわいい形だね。 ・丁寧に作ったね。 ・僕にも教えて。 など	・同じ場面でも言葉によって相手の気持ちが変わることに気付かせる。 ・言葉の使い方、言い方によって、相手に対する見方も変わることに気付かせる。 ・相手が喜んだり、やる気になったりするような言葉が考えられるようにさせる。	イラスト 学習プリント

	<p>4. 2人で役割分担をして、「ほかほかことば」をかんがえ実際に言ってみる。</p> <p>「じょうずだね。」「もらったらうれしいね。」など</p> <p>→「ありがとう。」「うれしい。」など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に言葉に出すことで、その時の気持ちを味わい、どんな言葉が相手により影響を与えるか考えさせる。 ・2. 3グループ、前に出して、みんなの前でやってみさせる。 	
<p>終末 10分</p>	<p>6. 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学習の様子を振り返り、学習カードに印をつける。 	<p>学 習 プ リ ント</p>

6. 評価 「ほかほかことば」がわかり、書くことができたか。

7. 本時の学習で、学んだこと・気づいたこと・思ったこと

- ・優しくすると、相手も優しくしてくれる。
- ・「じょうずだね」って言われるとうれしい。
- ・いいところをみつけてもらうとうれしい。
- ・「へた」といわれるといやだけれど「こうするとうまくなるよ」といわれるといやじゃない。
- ・いやなことをいったらあやまる。
- ・「なにそれ」って言っちゃいけない。(見せてほしいといや知りたいときは)「見せて」「教えて」と言う。
- ・自分が作ったものをほめられるとまた作りたくなる。
- ・「教えて」といわれて良かった。
- ・「ふつう。」と言ったら先生に「何が『ふつう』なの。」と聞かれた。でも言えて良かった。
- ・いつもいやなことばかり言っていると思ったけれど、(相手が)やさしかった。
- ・「ぼくにも作って」と言われて本当に作りたくなった。
- ・みんな、色々なことが書けていてすごい。
- ・「ありがとうといわれる」と気持ちがいい。
- ・友達が頑張っているときは、励ましてあげたい。
- ・緊張したけれど、楽しかった。
- ・うまくできるか心配だったけど、ちゃんと発表できた。
- ・みんながんばっていた。
- ・じょうずだねって言われるとうれしい。
- ・AさんとBさんの言い方が、じょうずだった。
- ・(自分が)書いたことがへんかなと思ったけどへんじゃなかった。
- ・いつもこんな勉強をしたい。
- ・いつもよりうまく言えて良かった。

(本時の学習カード)

なんていったらいいかな？

2月6日 水曜日

あたらしい1年生へのプレゼントをつくっています。

うん
いいよ

ちよっと
見せて！

ほかほかことばをかんがえよう

ありがとうございます。
つくりかたを
いあげようね。

おしえて。
きれいだね。
おーねね。
えかきうすだね。
じょうずだね。

ほかにもおもいついたら、かいてみましょう。

◎きょうのがくしゅうはどうでしたか、いろをぬりましょう。



なんていったらいいかな？

2月6日 水曜日

あたらしい1年生へのプレゼントをつくっています。

うん
いいよ

ちよっと
見せて！

ほかほかことばをかんがえよう

きじょうずにて
きたよ。

ねえねえ見
せてかわいね

ほかにもおもいついたら、かいてみましょう。
おしえてあげようね。
かわい
いからおしえてあげよう。

◎きょうのがくしゅうはどうでしたか、いろをぬりましょう。



なんていったらいいかな？

2月6日 水曜日

あたらしい1年生へのプレゼントをつくっています。

うん
いいよ

ちよっと
見せて！

ほかほかことばをかんがえよう

う。あ
りがと

とてもじよ
うずだね。
みんなど
うなげたい
に。
も、うす
くね。

ほかにもおもいついたら、かいてみましょう。

◎きょうのがくしゅうはどうでしたか、いろをぬりましょう。



なんていったらいいかな？

2月6日 水曜日

あたらしい1年生へのプレゼントをつくっています。

うん
いいよ

ちよっと
見せて！

ほかほかことばをかんがえよう

ありがと
うす
いれ
んた
よ。

きれいだね。
おしえて
ね。
じよ
うず
だね。
みん
な
だ
う
な
げ
たい
に。
も、
う
す
く
ね。

ほかにもおもいついたら、かいてみましょう。

◎きょうのがくしゅうはどうでしたか、いろをぬりましょう。



8. 成果と課題

【成果】

- 設定した場面が普段よくあることだけに、流れがスムーズだった。
- 実際に、メダルを作ることで、児童が自分のことととらえることができた。
- 児童一人一人が、自分の気持ちを素直に書いていた。
- ロールプレイングをすることで、実際の場面を想定して動くことができていた。
- その時の気持ちを言わせることで、相手にどんな影響があるかを感じられる。また、交流することで、友達に認められたという感情を持つことができる。
- 失敗した児童に対して、言い直す機会や待つ時間を自然に与えている様子が見られた。
- 普段乱暴にふるまっている児童も、「ほかほかことば」をつかってロールプレイングができていた。また、進んで前に出て発表でいたことがよかった。友達に認められたいという意識をきちんと持っていることがよくわかる。

【今後の課題】

- ・ わずかではあるが、児童の気持ちに温度差がある。冷めているようにも、照れくさくて素直にふるまうことができないようにも見られる。これらの児童をどうやってその気にさせていくかが、今後の学級経営の成功につながると思われる。
- ・ 実践を積み重ねていくことで、自尊感情をクラス全体で高めていくことが大切である。
- ・ 「ほかほかことば」を集めていくことで、「言葉として大切なもの」という共通の言語感覚を培っていくことが自分も相手もを大事にするという人権意識につながっていく。
- ・ 発達段階が進むにつれて、自分が変わっていくことで、クラス全体をどう変えていくかという課題意識を児童に持たせるように指導していくことが必要である。学年が変わっても、指導はつなげていくが、より高い課題意識をもって実践していくことが大切である。

9. 実践を終えて

普段どうしても乱暴になりがちな児童も、頭の中では、相手を傷つける言い方、傷つけずに友達に気持ちを伝える言い方の区別はできている。普段の取り組みだけでなく、授業の中で取り上げることで、自分の考えたことを整理し、言葉に表すことができた。また、ロールプレイングをしたことで、実際の生活場면을思い浮かべられたようで、その時の気持ちも素直に話すことができた。

本授業後、遊びの様子を見てみると、言葉をかけるときに、乱暴な言い方をしないように気をつけていたり、友達を傷つけるような発言があったとき周囲にいる児童がたしなめるような行動をとったりすることが増えてきた。また、その後も折にふれて、「ほかほかことば」で話すことを取り上げ、練習をしている。少しずつではあるが、「ほかほかことば」は「大切な言葉」だという共通の認識が生まれ、仲間意識や自尊感情の高まりが感じられるようになってきた。

今年度2年生になり、「1年生のお手本になろう」を合言葉に取り組んでいる。運動会の練習でも、命令口調ではなく、思いやりを持った言葉かけで、1年生と接することもできるようになってきた。チームメイトが失敗しても、「いいよ」「大丈夫」「私たちが挽回するから」など、「ほかほかことば」が自然に口をついて出るような場面も多くみられた。

目に見えない気持ちを相手に伝えるためには、表情や言葉に頼っていくしかない。その時の

言葉一つでその後の人間関係が変わることもある。自分を認めること、相手を認めることにより、お互いを大事にすることができるということを児童は学んだ。しかし、気持ちが高ぶってしまったり、まだ語彙が少なくとっさに言葉が出てこなかったりするため、つい人を傷つけるようなことを言うてしまうことも多い。繰り返し実践していくことの重要性を感じている。

本校は全学年単級で、6年間ほぼ同じメンバーで過ごしていかなければならない。少しでも心地よく生活できるように、お互いを大事にし、思いやって行動できるようクラスづくりをしていきたい。そして、児童が、これから出会う様々な人々とより良い人間関係を築くことができるよう手助けになるよう指導を続けていきたい。

(資料1)

アンケート結果 1年21名 2013年1月15日実施

1. あなたはいつも、ともだちとなかよくできますか。

できる 18 だいたいできる 2 あまりできない 1

2. それはどうしてですか

いっしょにあそんでいる 8 なかよくできる 3 やさしくしてあげている 3

けんかをするげんいんをつくらないようにしている 2

かなしそうなともだちにいっしょにあそぼうとってあげている 1

たのしい 1 たのしめることをいう 1 けんかをしていない 1

たまにけんかをする 1

3. ともだちにいわれてうれしかったことばはなんですか。

ありがとうといわれた 7 あそびにさそってくれた 5

すごい 2 字がうまいね 2 かわいい 1

おもしろいね 1 やさしいね 1 うれしいよ 1

4. ともだちにいわれていやだったことばはなんですか。

ばか 4 あほ しね いじわるなこと じじい くらめがね

しょうわの子っていわれた だいきらい 【言い方が】しつこくていやだった

5. ともだちにいったことで、よろこばれたことはありますか。

ある 13 ない 8

うれしい 2 かわいい フラフープがじょうずだね

ランドセルがきれいだね がんばったね おしえてあげた

6. ともだちにはなして、いやがられたことがありますか。

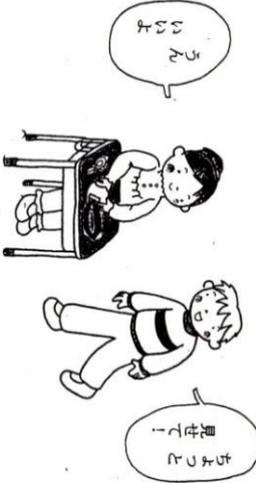
ある 9 ない 12

もんくをいった ばかっていった

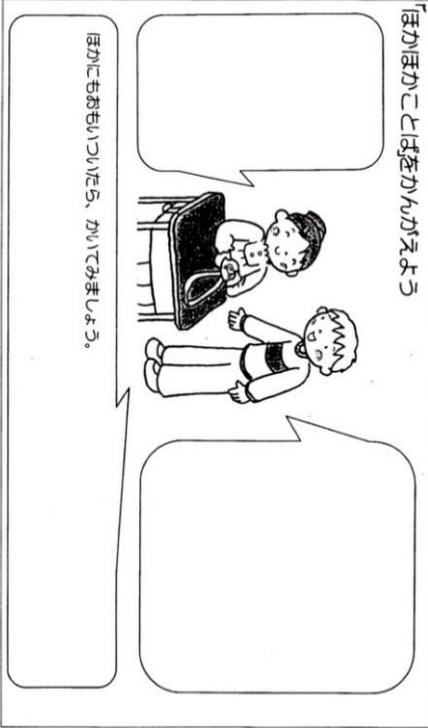
なんていったらいいかな？

月 日 よう日 名まえ ()

あたらしい1年生へのプレゼンをつくっています。



「ほかほかことばをかんがえよう」



◎きょうのがくしゅうはどうでしたか、いろをぬりましょう。



(資料2)
学習カード

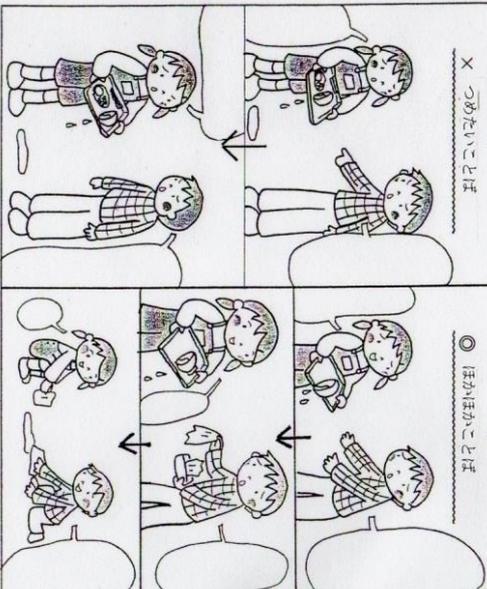
なんていったらいいのかな？

月 日 名まえ ()



× つめたいことば

◎ ほかほかことば



◎きょうの学しゅうはどうでしたか、いろをぬりましょう。



(資料3)

学年だより

はじめのいっぽ

甲州市立井尻小学校

1年 No.43

平成25年2月8日

「ほかほかことば」をつかおう

6日(水)には、東山梨地区の統一授業研究会がありました。1年生は、学級活動をしました。「なんていったらいいかな?」という題材で、心が温かくなるような言葉を「ほかほかことば」と名づけ、言葉かけをする練習をしました。自分たちで作ったメダルをお互いに見せ合い、よいところを見つけてほめあいました。



授業を参観した先生方から、「よい言葉をたくさん思いついているのがよい。」「前向きに学習している様子がよくわかる。」とほめていただきました。

普段の生活のなかでも、「ほかほかことば」が使えるように指導を続けていきたいと思えます。他の学年が早く帰るのに、少し遅くまで残って頑張った1年生。ご家庭でも、たくさんほめてあげてください。

(学年だよりより抜粋)

◎ 参考文献

- ・「温かいメッセージ」のソーシャルスキル教育
授業や個別支援で使える学習シナリオ33
- ・道徳授業で仲間づくりクラスづくり
モラルスキルトレーニングプログラム

伊佐貢一 著

林 泰成 編著